

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 県内製造業のDX支援技術開発プロジェクト

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業技術課 技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内3744)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 26,354 千円 (前年度予算額：61,730 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	61,730	29,742	0	0	0	0	0	0	31,988
要求額	26,354	12,070	0	0	0	0	0	0	14,284
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

ウィズ/アフターコロナ社会の産業動向や生活様式の変化に対応し、収益力や競争力を強化するため、企業はデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、新たなビジネスモデルの構築や消費行動への適応を図る必要がある。しかし、県内にはデジタル化未着手や途上の企業も多い。そこで、企業や業界のニーズを把握し、デジタル化のステージに合わせて開発した技術を移転することにより、企業や業界が自らDXを推進できるよう支援する。

(2) 事業内容

県内製造業のスマートファクトリー化による設備運用を効率化すると共に、メンテナンスシステムサービスの提供などの新事業分野への進出を目指し、工場設備や機器の状態管理に必要なデータ収集・解析システムを開発する。

産業機器製造業の生産プロセスを高度化し、その運用システムを新ビジネスに発展させることを目指し、人・ロボット・周辺機器の連携に必要なAI解析技術や簡易なロボット操作システムを開発する。

刃物産業の新製品開発や技術の継承と高度化を目指し、刃物形状の数値化と研磨加工技術の数値化により、研磨加工用ロボットシステムを開発する。

食品企業の国内外の販売力強化を目的に、「飲み頃」を新たなPR方法とし、最適な飲み頃で清酒を提供する、IoTを活用した品質管理技術を開発する。

家具・木工産業のオンライン販売力の強化を目的に、クッションの柔らかさを可視化する。先行研究による木材の質感を可視化する技術と統合し、ECサイトの販売量とWebを介した実店舗への誘導、販売機会の増加を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内企業の競争力強化と持続的発展を支援するためにD Xを支援する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	979	職員旅費（企業、共同研究機関との打合せ、学会参加）
需用費	3,839	研究開発のための各種消耗品
委託料	800	部材の外注加工、試験委託
使用料	386	研究開発機器の使用料
備品購入費	19,495	研究備品の購入
その他	855	学会参加負担金等
合計	26,354	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県D X推進計画の研究開発（工業系試験研究機関）支援プロジェクト及び製造業プロジェクトに位置付けられる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

産業動向及び生活様式の変化に対応し、県内企業が収益力や競争力を強化するため、企業・業界のニーズを把握し、デジタル化のステージに合わせて開発した技術を移転することにより、県内企業・業界が自らDXを推進できるよう支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	
					達成率	
① 技術移転の推進			0件	0件	5件	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p>令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	岐阜県DX推進計画の研究開発(工業系試験研究機関)支援プロジェクト及び製造業プロジェクトに位置付けられ、県内企業では、立ち遅れているDXを支援するプロジェクトとして、企業の期待も強く、必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究課題の内容について、ヒアリングを行い本年度実施内容の確認を行うとともに、進捗確認を行った。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	研究課題に対する中間評価を実施することとしており、得られた意見に応じた軌道修正、および効率化を図る。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域企業の競争力強化に関するニーズに基づいて、柔軟に対応していく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 業種別懇談会等で得られる企業ニーズに基づき、研究課題の方向性を微修正し、技術開発や新商品開発の強力な支援を進める。
